

図書館通信

最上校図書委員会No.17 11月15日



11月図書館企画

作品特集「2024年発表最新刊図書」展

『六月のぶりぶりぎっちょう』 万城目学著

京都の摩訶不思議を詰め込んだ「静」と「動」の2篇。

『愛しさに気づかぬうちに』 川口俊和著

そばにいたのにすれ違ってしまった人達の、再出発の物語。

『小鳥とリムジン』 小川糸著

3つめの「生」の物語。「愛することは、生きること」

『禁忌の子』 山口未桜著

過去と現在が交錯する、医療×本格ミステリ！

『生殖記』 朝井リョウ著

寿命を効率よく消費するためのヒトのオス個体に宿る〇〇

目線の、おそらく誰も読んだことのない文字列の集積。

『ナチュラルボーンチキン』 金原ひとみ著

慣れきった日常に光を与える、爽快ミラクルストーリー！

『富士山』 平野啓一郎著

あり得たかもしれない幾つもの人生の中で、何故、今のこの人生なのか？ その疑問を抱えて生きていく私たちに、

微かな光を与える傑作短篇集。

『スメラミシング』 小川哲著

壊れゆく世界の未来を問う、現代の黙示録。

宗教 × 超弩級エンタメ6篇を収録。

『五葉のまつり』 今村翔吾著

石田三成をめぐる歴史お仕事傑作巨篇！



文化祭図書委員会企画に

ご協力ありがとうございました。



多数の投票ありがとうございました。皆さんの投票の結果、下記の5冊を購入しましたので、ぜひ図書館に借りに来てください。

『二人一組になってください』 木爾チレン著

青春と友情の極致を描く最高傑作！

『さくらのまち』 三秋縊著

人の本当が見えなくなった現代の、痛く、悲しい罪を描く、圧巻の青春ミステリー！

『アーセナルにおいでよ』 あさのあつこ著

企業を立ち上げようと奮闘する若者を描いた青春小説！

『ヒカリノオト』 河邊徹著

一つの音楽が、時と場所を超え人々の心に寄りそう！

『一番の恋人』 君嶋彼方著

恋愛を超える愛の物語！



ハロウィントレジャーハント！



ご参加ありがとうございました。

今年度の参加者は9名でした。2、3年生の参加者が少なく残念に思います。

図書委員の呼びかけをもっとしっかりすることと、一人一人に伝わるような宣伝をしていきたいと思っています。

来年はぜひ参加してみてください。お待ちしております。

参加賞



1年 内田諒太郎 ・ 1年 加藤諒馬 ・ 1年 川窪昂広

1年 竹川永希 ・ 1年 幕田美咲 ・ 2年 柴崎凜香

2年 三浦明莉 ・ 3年 佐藤悠梨奈 ・ 菊池先生



読書の秋にオススメの新刊！

※2024 年ノーベル文学賞受賞 ハン・ガン

1970 年、韓国・光州生まれ。1994 年作家デビュー。

『すべての、白いものたちの』

アジア初のブッカー国際賞作家による奇蹟の傑作が文庫化。おくるみ産着、雪、骨、灰、白く笑う、米と飯……。朝鮮半島とワルシャワの街をつなぐ 65 の物語が捧げる、はかなくも偉大な命への祈り。

『家族だから愛したんじゃないで、愛したのが家族だった』

大丈夫な家族と、大丈夫じゃない日々を、疾走感 岸田奈美著
あふれるリズムカルな文章で、軽やかにユーモラスにとびこえる。

『グリフィスの傷』 千早茜著

からだは傷みを忘れない。たとえ肌がなめらかさを取り戻そうとも。傷をめぐる 10 の物語を通して癒えるとは何かを問いかける、切々とした疼きとふくよかな余韻に満ちた短編小説集。

『俺たちの箱根駅伝 上・下』 池井戸潤著



「東京箱根間往復大学駅伝競走」通称・箱根駅伝。

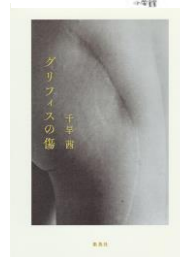
若人たちの熱き戦いが、いま始まる！不可能と言われた箱根中継を成功させた伝説の男から、現代にまで伝わるテレビマンたちの苦悩と奮闘を描く。

『幸せへのセンサー』 吉本ばなな著

幸せってそもそも何でしょう？ 59 年間生きてきてわかった、幸せってというのは、つまりこういうことじゃないか。こういう考え方をしたら自分にとっての幸せがどういうものかわかってくるはず。ということをお話ししてみます。幸せはオーダーメイド。いつでも、自分に合わせた形で取り出せる。

『海を破る者』 今村翔吾著

アジア大陸最強の帝国の侵略を退けた立役者・河野通有が対峙する一族相克の葛藤と活躍を描く歴史大河小説。



『難問の多い料理店』 結城真一郎著

オーナーは、配達員に情報を運ばせることで、どんな難問も華麗に解いてしまう。そして、配達員にこう伝えるのだ。「もし口外したら、命はない」

『なんで死体がスタジオに！？』 森バジル著

奮闘する幸良が、本番前に出会ったのは、大御所俳優・勇崎恭吾の死体だった！生放送まであと 20 分。幸良は特番を乗り切れるのか！？そして、この事件の犯人は？現代バラエティを分析する目線の鋭さと、軽妙な会話の面白さ、そしてゴシップの本質を衝く深度はピカイチ。一気読みできる超・エンタメ作品です！

『暗殺』 柴田哲孝著

元総理が凶弾に倒れ、その場にいた一人の男が捕まった。日本の未来を奪った 2 発の弾丸。本当に“彼”が、元総理を撃ったのか？日本を震撼させた実際の事件をモチーフに膨大な取材で描く。

『魂婚心中』 芦沢央著

感情爆発した 社会人女性がとんでもない凶行へと驕進してしまう表題作のほか、この現実とちょっとだけ異なる世界の謎と関係性の物語。

『首木の民』 菅田哲也著

大学の客員教授、久和が窃盗と公務執行妨害の容疑で逮捕された。運転する車の中から、血の付いた他人の財布が発見されたのだ。取調は進まなかった。一方、財布の持ち主を捜していた志村署の中田は、フリーライターの菊池に行き着く。菊池は交通事故を探っていたが、その事故には財務省のある人物が絡んでいた。

『猫と罰』 宇津木健太郎著

猫に九生ありという。かつて漱石と暮らした黒猫は、何度も生と死を繰り返し、ついに最後の命を授かった。過去世の悲惨な記憶から、孤独に生きる道を選んだ黒猫だったが、ある日、自称“魔女”が営む猫まみれの古書店北斗堂へ迷い込む。文豪の猫と創作の業が絡まり合う。

『鳥と港』 佐原ひかり著 “これから” の働きかたの物語。

